

“The skies with stars I looked up on Pisar Island were shining as smiles of my new friends”

——— ピサール島で見た星空が、友達と同じくらい輝いていました。 ———

最終日の合同発表会で言った言葉。ピサール島の星空は、「満天」の言葉では言い表せないくらいたくさんの星が輝いていました。



この体験で、私はミクロネシア連邦チューク州を訪問しました。

ホームステイでペアだった友達は、小学五年生の女の子。彼女は、ホストファミリーと会ってすぐ積極的に話しかけていました。

すごいな・・・と試してみていると、彼女が完璧な英語を使っているわけではないことに気がつきました。単語をある程度つなげるだけでもいけそうだ！

そう思った私は、思い切って「トイレOK?」と聞いてみました。すると、「OK!」と返事が返ってきて、トイレの場所を教えてもらいました。その後は、気にすることなく会話ができ、打ち解けていきました。

英語については、出発前から不安を感じていました。しかし、ホームステイを終えた私の心には、会話に対する不安は全く残っていませんでした。

一生懸命相手に伝えようとする、それを受けとめて理解しようとする。それがつながら、積み重なって会話が成り立つ。このことを感じる事ができました。

また、日本との生活の違いも強く感じました。例えば、現地ではタンクにためた雨水を生活に利用し、自然のものを食べ物や生活の道具にして最大限に活用しています。現地の人達は、近代化の影響を受けていない生活をしています。その生活は便利でない反面、無駄がなく環境を汚しません。現代だけではなく次の世代の生活まで考えると、彼らの生活から学ぶべきことがあると思いました。

この体験を終えて、自分の中で何かが変わっていることに気づきました。水を使うとき、ごみを捨てようとするとき、日常生活の中で今まで何気なくしてきたことをしようとするとき、私は彼らのことを思います。一つの地球の限りある資源を、日本にいる私たちがどのように利用していくのか、真剣に考えていく機会になりました。

ピサール島で見たような満天の星空を、今、日本でみることは難しくなっています。あの満天の星空を残すことは、私たちひとりひとりの行動にかかっています。

